

# トキめき

# Welcome!

第1集

- 福祉の現場から高校生のみなさんへ -

## 私の仕事 - 地域で、世界で活動する -

### 飛び交うふるさとの言葉

新潟市社会福祉協議会  
副会長 本村 美八留

38年間、精神病院のソーシャルワーカー、知的障害者、老人施設の園長として勤めた職場を退職して2年が経ちました。そしていま、新潟市内の大学で非常勤講師として、現場で得た社会福祉のあるべき姿の何かを伝えたいという思いと、また新しい学問の探求に学生とともに学びあう日々です。

私が大学に入学した1966年、沖縄はまだ米国の占領下にありました(当時、為替レートが1ドル360円でした)。そして沖縄出身の学生からパスポートを見せてもらい、実に驚いたものです。彼はパスポートを肌身離さず大切に持っていたことをよく覚えています。後に私はNGO(非政府援助)活動で東南アジアと交流を持つことになり、はじめはパスポートがいかに大切なものであるかを知ることができました。

日本福祉大学は全国津々浦々から学生が集まり、大学構内には方言が恥ずかしげに飛び交う和みとふるさとの香りが漂っていました。地方と意外に多かったように思います。こ

### 目次:

|  |   |
|--|---|
| 私の仕事<br>・本村 美八留さん                                  | 1 |
| 福祉の世界へようこそ - 編集部から -                               | 1 |
| 介護の現場で高齢者と向きあう<br>・国本 克幸さん<br>・茂野 恵美さん<br>・瀬沼 信博さん | 2 |
| 地域で福祉を考える<br>・池 裕子さん<br>・伊藤 公史さん                   | 3 |
| 障害者とともに<br>・本間 亮さん                                 | 3 |
| 福祉の道を志す<br>・山賀 亮一さん                                | 4 |
| インフォメーション  | 4 |



NGO活動の中から：インドネシア国パタム島での貧困家庭の教育支援の様子

① 滋賀県立草津高校  
② 社会福祉学部 S 45年度卒

れは今でも不思議に思います。例えば新潟県では佐渡高校出身が案外多いのです。ちなみに私は滋賀県の琵琶湖畔の片田舎出身です。学生の多くがあまり豊かでない地方出身です。当然警沢はできません。私もアルバイト三昧でしたが、社会人になってからこれが思いもかけず、力を発揮するものです。知らない都会に出て不安にかき消されそうなところと体を、地方出身だからこそお互い助け合い、ふるさとを思う学生に育てていったと思います。そして日本福祉大学卒業生は全国で、さらに海外でと活動の場を今も展開しています。

### 福祉の世界へようこそ

えます。

さらに、障害者施設、老人福祉施設、介護保険施設などの利用者は県全体で10万人にのぼっていて、ますます多くの専門家を求めています。一方新潟のボランティア活動への活動参加者は16万7千人余(新潟県社会福祉協議会による)を数えますが、これからの社会は、ますます広範な人々の社会参加を促していくに違いありません。このリーフレットは、このような“ふくし”のひろがりの中で、高校生の皆さんに、ぜひ社会福祉の専門家として、新潟の“ふくし”を担ってほしいと願い、福祉の現場からのメッセージを編集したものです。【編集部】

平成21年9月の新潟県の人口は238万3千人。うち老年人口は61万9千人、高齢化率は26.0%(新潟県統計データによる)で、全国平均より7年ほど早く高齢化がすすんでいるといわれています。15歳~64歳までの生産年齢人口との割合(老年人口指数)では42%近くにのぼります。

こうした高齢化の進行は、新潟の暮らしに大きな影響を与えます。この冬の豪雪被害のニュースがあいついでいますが、雪下ろしや雪かきなどへの支援のネットワークづくりが急がれます。また高齢化は地域の過疎化の問題と重なって“米どころ”新潟の未来に大きな影響を与

- 介護の現場で高齢者と向きあう -

野球部から福祉の道へ

柿崎第一デイスタービスセンター

国本 克幸

毎年、夏の甲子園が始まると、今の仕事に就こうと決めた当時の初々しい気持ちを思い出し、私は高校三年間、野球部員として甲子園を目指していましたが、幾度となく怪我に見舞われました。膝・肘・肩・目など体のいたるところを負傷し、その度にチームメイトや両親に心配をかけました。なかでも目の怪我はあわや失明という大怪我で、入院など約半年間運動ができない状態でした。度重なる怪我を通していつしか「自分は多くの方の支えによって野球をやらせていただいている。自分を支えてくれた方々のように、自分も人を支えることのできる仕事に就きたい」と考えるようになり、福祉という道を選択することになりました。

日本福祉大学との縁はそれからで、社会福祉士という国家資格の取得率が他大学と比較して抜群に良かったことなどから選びました。大学時代は仲間と過ごした時間の中で、より多くの学びがあったよう

に思います。たまたま男女各120人が共同生活を送る学生寮で過ごしたこともありましたが、北は北海道、南は沖縄、隣は中国などこれまで出会ったことのない人や文化に触れることができました。

人を相手にする介護の仕事にあって、この大学時代の仲間との出会いは、人には様々な価値観や人生観があることを教えてくれ、自分自身の人間観を深めるよい時間となりました。病氣や怪我の辛さ、人の温かさを知った高校時代の経験と共に、デイスタービスでご利用者一人ひとりの思いに共感し、その思いの実現に努めている今の私の大切な礎になっています。

①高田高校 ②社会福祉学部H10年度卒



職場の仲間と一緒に 前列中央：国本さん

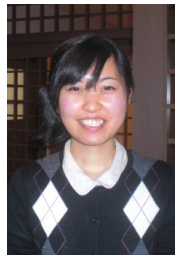
ゼミで学んだこと、身に付いた根性！

社会福祉法人苗場福祉会

特別養護老人ホームこころの杜

茂野 恵美

私が日本福祉大学を選んだ理由は、学部であれば、伝統があり、実績もあり、環境の整った大学へ進みたいと考えたからです。



新潟から遠く愛知へ一人暮らしという事になりましたが、あまり不安はありませんでした。大家さんはとても親切で、野菜や果物をくれたり、病気に罹れば医者まで連れて行ってくれたり、何かあれば直ぐに飛んで来て下さり、親元離れての一人暮らしの強い味方でした。

新潟から愛知は遠いですが、最初は一人では出来ないことが多かったですが、4年間一人暮らしをする事で、人に頼らない行動力がつきました（最初は新幹線で新潟へ帰る事すらままならなかったのです

が。

大学生活で一番得た事は、3・4年生の高齢者福祉のゼミ活動でした。厳しいゼミでした。正直何度か「死にそうだ！」と思いました。しかし、社会へ出ると有り難味を感じる事ばかりです。ゼミで身に付いた福祉に対する知識・プライド。大変なゼミを乗り越って身に付いた根性。言ってくれる事は自分に跳ね返ってくる有難い物なのだという事……。このゼミで、福祉に対する知識と共に、社会に出ても負けない様に気持ちを強くして頂いたと思います。

今は六日町の特養で介護をしています。日々色々考える事はありますが、お客様が大好きで、関わっている事が楽しくて、幸せだと思っています。今はとにかく色々な事を経験する期間とし、いずれは相談員になりたいです。4年間の大学生活は私の沢山の「財産」になりました。皆さんも沢山の財産を手に入れて下さい。

①加茂高校 ②社会福祉学部H19年度卒

人の幸せのために

小千谷市地域包括支援センター

瀬沼 信博

私は日本福祉大学を卒業し30年近くがたち、我が母校に思いを寄せ、特徴的なものとして考えることは二つあります。一つは仲間同士の絆が強くあったことです。当時、大学の敷地は決して広いとは言えないものでしたが、和気あいあいとした「人に優しい」気風があり、同級生のみならず、学年の上下、そして教職員との関係においても仲間意識の強さを実感しました。新潟を離れてのひとり暮らしで、さびしいと思ったことは記憶にありません。



二つ目には福祉をとりまく社会の問題にも目を向け、自分できることは何かを学び、献身的に行動する教職員や学生、そして卒業生が多数いることです。

平成16年の中越大地震の直後には、大学が被災地への支援組織を立ち上げ、私の住む小千谷市にも教職員や学生の方々が熱心な支援をいただき、母校のありがたさを強く感じました。

日本福祉大学の建学の精神は「人類愛の精神に燃えて社会の革新と進歩に挺身する。」とうたわれ、これが開校以来から脈々と引き継がれているものと考えています。

さて、現在私は高齢者の健康や介護などの悩みについての相談、介護予防のためのケアマネジメント等の業務を通して様々な高齢者と向き合っています。困難な問題があっても、ネットワークを広げ、チームとして一歩でも前に進められるような取組心がけています。

ひとつのことで良いので他人の幸せのために何が出来るか、熱心に考えてみたい方は、ぜひ我が母校で学び、成長していただくよう希望しています。

①小千谷西高校 ②社会福祉学部第一部S56年度卒

地域で福祉を考える

学び・遊び・気づきのある  
大学にチャレンジ

医療法人恵生会 南浜病院 池 裕子



大学時代、勉強（ゼミや自主的な勉強会）・ボランティア（障害学生支援）・サークル（弓道とバスケット）…いろいろな事にチャレンジしました。少しの興味と行動で、いろいろな経験と多くの出会いがありました。ボランティアでは、たまたま知り合った友人が難聴で、ノートテイク（授業などの要約筆記）を始めました。初めは友人のテイクしかしていませんでしたが、集まりに参加して雑談しているうちに問題点が見えてきて、システム構築やボランティア養成に関わるようになりました。

また現在の職業は、授業で興味を持ち、ゼミで学びを深めるうちに志望するようになりました。それは、精神科病院で働く精神保健福祉士です。現在の所属は病院地域生活支援課で、文字通り地域生活を支援しています。毎日多くの当事者の方と話しますが、聴くことを大事にしようと考えています。

そうしたことは、入学前からわかっていたわけではありません。福祉大を選んだ理由はシンプルで、福祉に興味があったことと、母からの薦めです。母が職場等で、卒業生の活躍を目にしていたそうです。私も働いてみて、卒業生の多さに驚いていました。また卒業した後も、同窓会活動だけでなく仕事においてまで、学び・遊び・気づきを楽しんでいます。

生まれ育った新潟で働いています。愛知での4年間で全国各地の仲間ができて、今も交流は続いています。新潟から離れてみることで、今まで知らなかった新潟や自分、周りの支えに気づくことができました。是非、少しのでも興味があれば、チャレンジしてみてください。

①佐渡高校 ②社会福祉学部保健福祉学科H19年度卒

肌で感じた、あたりまえのこと

胎内市社会福祉協議会 伊藤 公史

高校時代は部活に明け暮れ、気付いたら浪人生。そして2浪目。志望は経済学部、「自分は福祉には縁がない」と思っていた。そんな私が、祖父の死を境に福祉に興味を持ち、本学を受験。両親に経済的負担をかけないようにと、夜間学部（現アフタヌーンコース）を選んだ。

入学してみると、夜間学部は楽しかった。年齢層が広く、仕事と学生を両立している人や、定年後の女性などがいて、学生生活を送ること自体が社会勉強をしているようなものだった。

その中で、社会人になってから、「日本福祉大学で学んで良かった」と思えることがある。それは、本学には他の福祉系大学と違い、障がいを持っている学生が多くいたことである。車イスを利用していたり、聴覚に障がいがあれば手話でコミュニケーションをとっていたり、視覚に障がいがあれば盲導犬を連れて講義を聴く…など。それまでの生活では、関わったことのない人たちと学生生活を共に過ごし、仲間になったことと、「障がいがあってもなくとも、壁のない一人の人間として、相手を尊重することの大切さ」を肌で感じる毎日だった。

私は今、社会福祉協議会で地域福祉・ボランティアの担当をしている。特に、子どもたちの福祉教育に力を入れていている。高齢者や障がい者に対しては「かわいそうな人」、「何かをしてあげなくてはならない人」と頭で考えて動くのではなく、「みんなと一緒にいたい当たり前なんだ」と感じて欲しい」とメッセージを送り続けている。これこそが本学で私が肌で感じて学んだことであり、『誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らしているのまちづくり』をお手伝することだと考えている。

①中条高校 ②社会福祉学部2部H7年度卒



小学校での福祉教育の活動支援から

- 障害者とともに - 福祉人としてのスキル・人としての大切さ

社会福祉法人上越福祉会

かなやの里更生園 本間 亮

私は高校時代、一人暮らしをしていた祖母が介助を必要とし始めた事をきっかけに、社会福祉を学んでみたいと考えるようになりました。そこで、総合的に福祉について学ぶことのできる日本福祉大学を選びました。

確かに愛知県という未知の土地に行くことへの不安もありましたが、新しい土地で、一人で何かを成し遂げるということは、今思うと自分の人生の中でもとても貴重な経験でした。4年間の大学生活では、色んな専門的な知識はもちろんのこと、今の仕事や生きていく上で大切な「人と人とのつながり」「思いやり」などたくさんの方の知恵を学ぶことができました。

いま私は、上越市にある、知的・身体に障害をもつ方々が利用されている施設で、皆さんの生活を充実したものにすべくお手伝いをしています。具体的には、利用者の皆さんが作業活動で作っている工芸作品や農作物を地域で販売したり、障害者スポーツ大会への出場・太鼓クラブやダンスクラブは各種イベントで披露できるような支援したりしています。私たちは利用者の皆さんが、地域の方とふれあう機会や楽しみ・いきがいを感ずることのできる機会をより多くもてるような様々な機関やボランティアの協力を得ながら活動しています。

また、利用者の方が悩みや不安を抱えているときは、その悩みや不安を解消できるように相談に乗ったり、必要な手助けをしたりしています。そこで、大学生活で培った知識や経験が活かせてきているのです。

皆さんも是非、日本福祉大学で福祉人としてのスキル・人としての大切さを学んでみませんか。そんな先輩がこれからも新潟の地から生まれることを願っています。



①高田北城高校 ②社会福祉学部H11年度卒

## 福祉の道を志す - きつかけは24時間テレビ -

日本福祉大学 新潟県地域同窓会

会長 山賀 亮一

私は社会福祉士取得後、現在障害者の通所施設に施設長として勤務しています。気がつけばもう27年この仕事をしてきたんですね。なぜ当時福祉の関係の大学にいかうと思っただか。それは、高校三年生の夏、今では誰もが知っている「24時間テレビ」を観たのがきっかけでした。私はその番組のなかで障害者が色々チャレンジしている姿をみ、「これから障害者福祉の時代なのかも」と感じました。ただ当時福祉を学べる学校は県内はもとより県外でも少なく、最終的には新潟からはいぶ遠くなりますが、名古屋にある日本福祉大にしたいと決めたのです。

4月早々に初めて名古屋の地に足を踏み入れたときは、すでにキャンパスは桜が満開でした。親元から離れて生活することは家族に大きな負担を与えますが、今となっては、親のありがたさ、仲間の大切さを学んだ気がします。あの4年間があったからこそ、時々挫折しつつも仕事を続けてこられたのだと思います。とくに3年生からは「障害者福祉」関係のゼミを選択し、実際に実習などを通じて障害を持った方たちと接する機会をもちました。初めての実習では重度の障害を持つ方たちの介助ができずショックを受け、落ち込んだ時期もありました。もしかすると私の中では「障害者福祉」にかかわる仕事を指すことを、どこか甘く「きれいなこと」として考えていたのかもしれない。そんな私は時には仲間から叱咤激励を受けながら、「障害者とかかわる仕事を指すことの大変さ」を学んだように感じます。

さて、障害福祉の分野も日々大きく変化しています。よりよい福祉を目指したいという思いはあっても、様々な場面での難しさ、厳

しさに思い悩み、職場から去っていったというマイナスの状況が生まれてしまうことも少なくありません。施設を運営する立場に立つと、利用者やその家族のニーズと職員の労働環境との板ばさみになることも少なくありません。「資格」をとることは大切ですが、福祉の現場で共にこの難しさ、厳しさに立ち向かっていけるような人になって欲しいと思っています。

ところで、一人一人の持つニーズに耳を傾け、支援し続けるには自分の思いや力だけでは実現しないということです。さまざまな機関や人とのネットワークなどをつくりながら、たくさんの人たちから協力してもらわなければならぬのです。もし、必要なサービスが無ければ「どうしたら作れるか」ということも考えます。まさに皆さんは将来、働きながら自分の地域で「福祉」を作り上げていくことが可能な存在なのです。

このように4年間を振り返ってみると、「資格」だけではない「福祉の仕事に就く」ことの「志」みたいなものを学んだように思います。これからも福祉は大きく変わっていくと思います。これからは大きく変わっていくと、例えば「チャレンジャー」を創ることを忘れない福祉職でありたいと思っています。



多機能型施設 ポプラの家施設長

- ① 巻高校
- ② 社会福祉学部S57年度卒
- ③ 社会福祉法人 新潟もぐら会ポプラの家

## インフォメーション

### ■ 入学試験のご案内

#### ◎ 前期日程

郵送出願期間 1月5日～28日

窓口出願期間 1月29日・30日 ※消印有効

試験日 2月3・4・5日

合格発表日 2月15日

◎ センター試験利用

郵送出願期間 1月5日～29日

窓口出願期間 1月30日・2月1日 ※消印有効

合格発表日 2月15日

#### ◎ 後期日程

◎ 一般入試・センター試験利用

郵送出願期間 2月15日～3月3日

窓口出願期間 3月4日のみ ※消印有効

試験日(一般) 3月9日

合格発表 3月17日

※ 一般入試試験、大学入試センター試験利用入学試験では、インターネットによる出願ができます。

<http://www.n-fukushi.ac.jp/nvusi/index.htm> 詳細は大学HPへ

■ 通信教育部入学相談会のお知らせ

日時・2月21日(日) 11～16時

場所・朱鷺メッセ



## 日本福祉大学同窓会 新潟県支部・日本福祉大学 北信越ブロックセンター共同デスク

### ◆ 日本福祉大学 同窓会新潟県支部

〒950-0323 新潟市江南区嘉瀬1047-2 ポプラの家 電話 (025) 280-3394 / FAX (025) 280-4374

### ◆ 日本福祉大学北信越ブロックセンター 富山オフィス / 松本オフィス

〒930-0002 富山県富山市新富町1-2-3 CiC(シック)4階 〒390-0815 長野県松本市深志1-2-1 ミヤノオビル5階

電話 (076) 431-2027 / FAX (076) 431-2028

電話 (0263) 31-9011 / FAX (0263) 32-8018